

和太鼓奏者
岡田寛行



宴

茶と
和楽器の

うたげ
2019

津軽三味線奏者
山中信人



和太鼓奏者
響道宴



2019.
10月26日 **土** [開場] 15:30
[開演] 16:00

[会場] 掛川 春林院 静岡県掛川市吉岡1051
※駐車場有り

[料金] お一人様¥2,000 小学生以下無料

ご予約・お問い合わせ TEL:0537-26-1353(担当:岩澤)

ご予約(先着100名様)に『Chabacco(チャバコ)』をプレゼント!!

「世界農業遺産」に認定されている伝統農法「茶草場農法」によって生産された掛川市産100%の高級茶葉を使用し、水かお湯さえあれば、いつでも、どこでも本格的な日本茶の味わいをお楽しみいただけます。

※タバコではありません。お茶の粉末スティックです。※パッケージは異なる場合がございます。

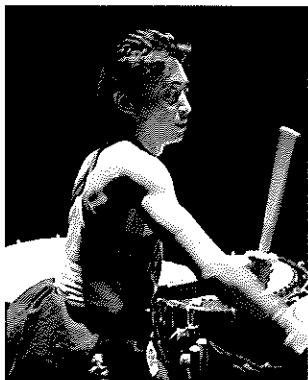


会場案内MAP



「かけがわ茶エンナーレ2020」プレイベント

◆オープニング/太鼓塾アブラナ



和太鼓奏者
岡田 寛行 Hiroyuki Okada

静岡県掛川市在住。
静岡を拠点に活動する和太鼓演奏ユニット「ようそろ」にて太鼓演奏を開始(2017年3月解散)。2007年から現在まで沖縄伝統歌舞団「琉神」のメンバーとしても活躍。様々なプレイヤーとの共演も数多く、上妻宏光(津軽三味線)古謝美佐子(沖縄唄者)夏川りみ(歌手)廣原武美(津軽三味線)響道宴(和太鼓)山中信人(津軽三味線)他

多数。また、2017年より和楽器ユニット「二鼓一」にて、日本人初のガラパゴス諸島公演を行う。現在、掛川市原泉地区立「さくら咲く学校」に個人拠点を置き、地域に根付く逸話や伝説を太鼓の演奏と語りで作品化した演出「打ち語り」を独自に研究する。2017年6月より静岡県掛川市倉真地区をモデルとした森の力で地域再生事業の一つ「倉真の伝統文化を聞き書きと創作太鼓で語り継ぐ事業」の事業プロデューサーに就任。クラーク国際高等学校静岡キャンパスの古典芸能特別教員。太鼓塾アブラナ主宰。



津軽三味線奏者
山中 信人 Nobuto Yamanaka

中学校卒業後15歳で単身青森県弘前市に渡り、津軽三味線奏者「山田千里(やまだちさと)」の内弟子として4年間修業。山田千里流師範となる。毎年青森県弘前市でおこなわれる津軽三味線世界大会ではA級3連覇を達成し殿堂入り。また津軽民謡の伝統的な唄付けの技術を競い合う「唄付け伴奏部門」で3回の優勝を獲得。海外計36の国と地域で演奏。約16年にわたり「南中ソーラン」など現代風にアレンジした民謡を演奏する伊藤多喜雄&タキオバンドのメンバーとして活動。世界を意識した活動をおこなう埼玉県にゆかりのある個人又は団体に贈られる「平成29年度埼玉グローバル賞」を受賞。「平成30年度北本市文化奨励賞」を受賞。現在はソロ奏者として演奏会、学校公演、講演会などで活動中。洗足学園音楽大学非常勤講師。加須市観光大使。埼玉親善大使。

中学校卒業後15歳で単身青森県弘前市に渡り、津軽三味線奏者「山田千里(やまだちさと)」の内弟子として4年間修業。山田千里流師範となる。毎年青森県弘前市でおこなわれる津軽三味線世界大会ではA級3連覇を達成し殿堂入り。また津軽民謡の伝統的な唄付けの技術を競い合う「唄付け伴奏部門」で3回の優勝を獲得。海外計36の国と地域で演奏。約16年にわたり「南中ソーラン」など現代風にアレンジした民謡を演奏する伊藤多喜雄&タキオバンドのメンバーとして活動。世界を意識した活動をおこなう埼玉県にゆかりのある個人又は団体に贈られる「平成29年度埼玉グローバル賞」を受賞。「平成30年度北本市文化奨励賞」を受賞。現在はソロ奏者として演奏会、学校公演、講演会などで活動中。洗足学園音楽大学非常勤講師。加須市観光大使。埼玉親善大使。



和太鼓奏者
響 道宴 Toen Hibiki

太鼓集団「鼓童」のメンバーとして、海外・国内公演・CDに参加。

より深い太鼓の可能性を求め、「鼓童」を退座し、1995年よりソリストとして活動。

太鼓の音は、人間の根源的な部分にダイレクトに伝わる音であり、いわゆる丹田(腹)で感じ、本来日本人が持っていた、空間や行間を楽しむ「間」の文化、見えないところにも気を配る「粋」

の文化、見えないものを感じ取る「感性」の文化と感性を呼び起こすことができる楽器であることを基に、和太鼓奏者として様々な試みにチャレンジしている。

その場、その時を感じながら「人」や「自然」との繋がりを表現する即興を得意とし、「個」として太鼓と正面から向き合い、独創的な世界観を確立。また、その一方、創造的でチャレンジ精神旺盛な姿勢で異種表現者(陶芸家・音楽人形遣い・舞踏家・能楽師・ヴォーカリスト・ピアニスト・ダンサーなど)とのコラボレーションも重ね、和太鼓の音楽的な可能性や表現を提示し続け、さまざまなユニットや企画の立ち上げ、プロジェクトへの参加、海外公演も行っている。

曹洞宗春林院は山号を鞍瀨山と称し、文明元年(一四六九)掛川市内上垂木七窪の浄域に創建。遠江地頭職本郷城主十四代原頼郷の伯母春窓林尼公を開基と成し、天文四年(一五三五)現在地に移転開創す。開山に可睡齋七世太陽一鶴禪師を請し、二祖を開基春窓尼公の甥松巖嶺藤大和尚とし、寺号を尼公の法名に因み「春林院」とす。爾来法運大いに栄え末寺十か寺を逐次開闢、遠州秋葉総本殿可睡齋後見寺として現在に至る。

位牌堂奥の開山堂の天井絵七十二枚は、江戸後期の絵師村松道安(谷文晁派村松依弘の弟子)の作。本堂須弥壇内陣三十二枚の天井絵も江戸時代後期(作者不詳)の作であり、何れも当時の彩色のままである。

曹洞宗 鞍瀨山 春林院

